

山谷 幹夫 著 (TOTO歴史資料館初代館長)  
同館シニアアドバイザー

堂々の発刊!



# 日本の水洗トイレ ～誕生と発達～



- [目次] ◆日本の水洗トイレ誕生と発達(1)～(27)  
◆現存する衛生器具この一品(1)～(9)  
◆〈参考〉大正・昭和時代初期のトイレ用器具／TOTOのトイレ用器具誕生時期  
1955年以降の日本の水洗トイレ概史／建築設備技術遺産に認定されたトイレ用器具

B5版 56頁 定価=1,200円(税込・送料別)／50部以上購入1,000円(税込・送料別)

発行 (株)日本設備工業新聞社

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町10-13 野元第一ビル TEL.03-3496-4774 FAX.03-3464-1884

・・・本書推薦のことば・・・

## 歴史を学び、将来を知る必読の一冊

全国管工事業協同組合連合会 会長 大澤 規郎

月刊コアに連載され、毎回楽しく読んでいた「日本の水洗トイレ誕生と発達」が一冊の本になるとお聞きし、水道関係者の一人として、とてもうれしく感じている。

ウィキペディアによると水洗トイレは、水道管を便器の給水口に接続して、流水により便器内の排泄物を洗浄し、下水道や浄化槽に接続するとあり、その設置には給排水工事を伴うため管工事業者が行うと解説されている。

わずか半世紀の間で汚水処理人口普及率が9割と飛躍的に上昇した背景は、まさに全管連会員企業の技術力の証しでもあると誇りたい。現場での研鑽を積み重ね、国民の安心・安全・快適な暮らし実現の象徴として、水洗トイレの発展とともに努力してきた歴史である。

水を生業にする我々管工事業者にとって、歴史を学び、将来のトイレ事情の動向を知るうえでも必読の一冊である。

## 計り知れない熱意と努力の積み重ね

公益財団法人給水工事技術振興財団 理事長 浜田 康敬  
元厚生省生活衛生局水道環境部長

田舎育ちで汲み取り便所の生活だった私にとって、幼い頃からのトイレの印象は、臭い、汚い、暗いというものであった。しかし、改めて現状を意識してみるとその印象が一変していることに気付く。今や、トイレは臭くも汚くもなく、むしろ新聞でも見ながらひと時を過ごす毎日の憩いの場になっているのである。

山谷幹夫氏が著された「水洗トイレ誕生と発達」を読むと、私達が何気なく享受するようになった居心地の良いトイレ空間の実現のために、計り知れない様々な熱意と努力の積み重ねがあったことを簡潔な文から鮮明に感じ取ることができる。

本書では、100年にわたってトイレ改良の先陣を切ってきたTOTO株式会社のたゆまぬ努力の歴史、特に今やトイレの常識となったウォシュレットに象徴される衛生性や快適性という消費者ニーズに真摯に向き合ってきた製品開発の経緯が分かり易く記述されている。さらに興味を惹かれるのは、省資源や省エネルギーへの対応、障害者や高齢者への配慮、周辺機器を含めたトイレ空間全体の改善などの取り組みについても幅広く紹介されていることである。

私たち給水装置工事の関係者はもとより、水道に関する仕事に携わられる方々に広く読んでいただくことを是非お勧めしたい書である。

## お申込み用紙 (必要事項をご記入の上FAXで、下記の申込先へご注文ください)

お名前 (会社名・担当者名)	部数
部署・所属	
ご住所	電話番号

申込先

(株)日本設備工業新聞社

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町10-13 野元第一ビル

TEL.03-3496-4774 FAX.03-3464-1884